

# ニュースレター

2021 (令和3), 6, 16 NO.2

宝塚市自然保護協会会長 和田秀彰

投稿先: m\_kakita2711@yahoo.co.jp (垣田へ)

前回のニュースレターで「カミキリムシ」のことを書きましたが、さっそく村上さんから返事をいただきました。



「北雲雀きずきの森」でヤツメカミキリがサクラの枯れ木で交尾したり、産卵したりしているのを見ましたので、写真を送ります。村上協三  
※「きずきの森」の駐車場は土・日と祝日に開いているようです。

## 「ジャコウアゲハとお菊虫」 森田 至

ジャコウアゲハは皆さんご存じの方も多いかと思いますが、お菊虫はご存じでしょうか？

お菊虫はジャコウアゲハの蛹を指した名前です。名前のいわれは怪談話の播州皿屋敷に出てくるお菊さんにちなむものです。蛹の形が、お菊さんが後ろ手に縛られ、木にぶら下げられている様に見えることから付けられました。

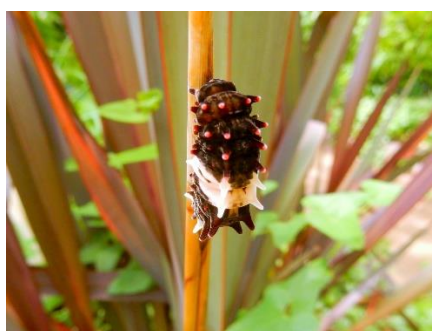
ジャコウアゲハの名前は、オスがメスを誘うためにだす匂い物質がシカの麝香（英語ムスク）に似ていることからつきました。麝香の匂いは甘い香りがするらしいのですが、ジャコウアゲハの成虫の匂いを嗅いだ人よれば、やはり甘い香りがしたと言っていました。しかし、ムスクの語源を調べるとサンスクリット語で辜丸を意味する言葉らしいのです。（辜丸の匂いという意味ではない。これを知ると、なんだか匂いを嗅いでみるのをためらってしまいますね。

ジャコウアゲハの幼虫はウマノスズクサを食草にしていますが、この草は毒成分（アリストロキア酸とセコイトール）を含んでいて、ジャコウアゲハのメスは2本の前肢で葉をパンパンとたたき、前肢の感覚毛でその味覚を感じ取っています。葉の裏に卵を産み、幼虫になると毒草を食べ選択的に体内に毒を蓄積させ、天敵から身を守っています。成虫も毒は体内に残ったままです。

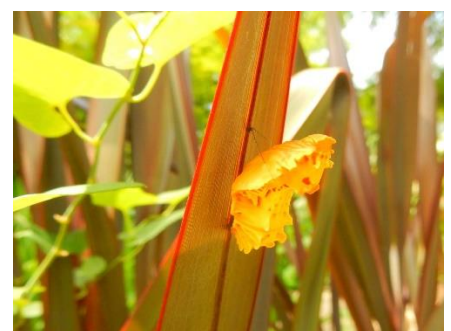
因みにジャコウアゲハは姫路市の市蝶に制定されています。



食草：ウマノスズクサ



幼虫



サナギ

(※写真は4枚とも文化芸術センターのメインガーデンで撮ったものです)



残念ながら前日の天気予報が当地方の降水確率 60%でしたので、お知らせしていた通り中止といたしました。実際の天気は雨も降らないで実施可ではありましたが・・・これは結果論なので、お許しをいただくとして、次回にはもう少し工夫をしたいと思っております。

9人の申し込み（主催者含む）で、サツキも見ごろ。溪谷の水流も多く、逃がした魚は大きいなあと、また次回に楽しみを残しておきましょう。写真添付しておきます。

おきましょう。写真添付しておきます。



→  
拡大



(※当日行かれたようで、今の時期、まだこの風景が見られるかも)

### 「自動販売機で偶然見つけました」

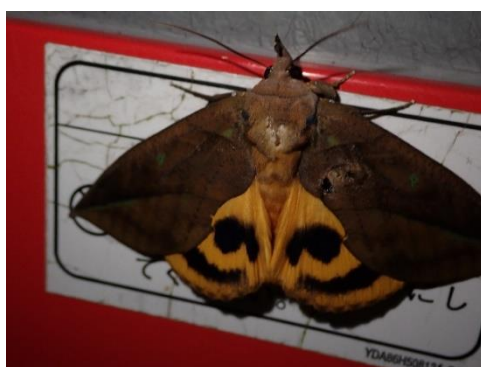
垣田 衛

第1号で「アケビコノハ」の記事を載せましたが、田舎からの帰り、お茶を買おうと道沿いの自動販売機（三田市内）に寄ると、偶然止まっている「アケビコノハ」を見つけました。最初は翅を閉じていましたが、何とか下翅を見ようと少し触ると落ちかけて、またしても偶然、自動販売機の下の方に止まり翅を広げました。携帯で写真を撮り終わると、すぐ飛んで行ってしまいました。「ガ」というと、ほとんどの人が「いやだ！」と感じる昆虫だと思いますが、よく見ると美しい色彩や模様をしたものがありますね。同じところにもう1匹のきれいな模様をした「アオシャクの仲間」もいました。

夜の自動販売機の灯りには、結構虫が集まりますので、絶好の観察ポイントかも。



アケビコノハ



下翅がよく分かります↑



アオシャクの仲間

### 訂正とお詫び

前回のニュースレターの中で「裂開果の一種で孔開？果と言われ」の部分ですが、「裂開果の一種で孔開蒴果と言われ」に訂正し、お詫び申し上げます。